

研修報告

平成19年度 海外研修報告 (3) — Children's Hospital & Regional Medical Centerにおける学び —

看護学部国際交流委員会

赤松 弥生¹⁾、渡邊 竹美¹⁾、香月 毅史¹⁾、小池 武嗣¹⁾

要旨

2007年8月20日(月)から8月27日(月)6泊8日の日程で、アメリカWashington州 Seattleにて第1回看護学部学生海外研修を実施した。研修では、Washington大学ドミトリーに宿泊し市内観光や高齢者施設を視察した中、5日目(8月24日)にChildren's Hospital & Regional Medical Centerを視察した。Children's Hospital & Regional Medical Centerは、今回の視察先の中では唯一の病院であった。学生は、Children's Hospital & Regional Medical Centerの研修を通して、アメリカの医療事情、施設設備の工夫や看護師の役割について日米の考え方の違いを学ぶことができた。

キーワード：小児医療、感染予防対策、アメリカの医療事情、海外研修

I. はじめに

アメリカWashington州のSeattle市は樺太南端と同じくらいの緯度であるが、暖流のおかげで1年中過ごしやすい気候で、雪はまれに何年かに一度降るくらいだといわれている。また、街は入り組んだ海岸線のため、海や湖が都市近郊に広がり美しい景色を織りなしている。Seattleの市民は、自分たちの街の快適さに誇りを持っており、世界で最も住みたい都市の第1位にあげられたことがあるほどである。このSeattleの恵まれた自然・社会環境は、快適な老後を過ごすには最適な条件を備えている。そのため、Seattleでは退職者住宅、高齢者専用住宅、介護付き高齢者住宅、特別養護老人ホームなど、数多くの高齢者設備が早くから進んでいるといわれている。

今回、本学部ではアメリカWashington州Seattleにおいて第1回海外研修を実施した。研修5日目は、今回の研修で唯一の病院であるChildren's Hospital & Regional Medical Centerを視察した。本稿では、Seattleの概要と米国の医療事情、研修で訪問したChildren's Hospital & Regional Medical Centerの視察内容、研修に参加した学生の反応、そして本学部学生がChildren's Hospital & Regional Medical Centerを視察した意義について考察したので、ここ

に報告する。

II. Seattleの概要と米国の医療事情

1. Seattleの概要

Seattleは、アメリカ北西部にある都市で、Washington州を含めた太平洋岸北西部地域の最大都市である。ピュージェット湾とワシントン湖の間に位置し、カナダとの国境まで約180kmである。人口は578,700人で、タコマを含めた都市圏は人口380万人にも及ぶ。住民のうち約73.40%が白人であり、全米の大都市の中で最も白人の比率が高い都市のひとつである。また、多民族からなる比率が合衆国内で最も高い大都市のひとつでもある。

この都市内の一世帯あたりの平均的な年収は45,736米ドルであり、一家族あたりの平均的な年収は62,195米ドルである。人口の11.8%及び家族の6.9%は貧困線以下である。全人口のうち18歳未満の13.8%及び65歳以上の10.2%は貧困線以下の生活を送っている。

2. 米国の医療事情

米国の医学は、世界最高の水準にあることに違いはないが、現行の米国の医療は以下のような様々な問題を抱えているといわれている¹⁾。

1) 高騰する医療費抑制のために様々な規制がなさ

れ、高い水準にある米国の医学が生かされていない面もある。また、医療訴訟が多いため、医師の賠償保険が高く、それが医療費に跳ね返り、医療費が非常に高額になっている。

- 2) 専門医は完全予約制のため、急病時に受診できる医療機関が限られている。予約無しで受診できる救急医療施設（ER）に、軽症者も重症者も集まるために、ERはいつも混んでいる。当然、重症者が優先されるために軽症者は数時間待たされることになる。最近の報道では、『米国のERは危機的状態にある』とさえ言われている。
- 3) 医療機関受診の際は、受付で診療費の支払い能力を問われる。現金、クレジットカードなど、支払能力を十分証明できるものを持参していく必要がある。

Ⅲ. Children's Hospital & Regional Medical Centerの概要

Children's Hospital & Regional Medical Centerは、アメリカWashington州Seattleにある。1906年にAnna Clise (写真1) によって設立され、2006年に100周年を迎えた。現在、ワシントン、アラスカ、モンタナ、アイダホの4つの州の小児中核病院であり、各地から病気や怪我に苦しむ子どもたちを受け入れている。また、喘息・がん・重症な骨折・複合的遺伝疾患などを専門的に治療している。

創設者のAnna Cliseは、1900年初期に息子を炎症性リウマチで亡くし、そのときの子どもが痛みや苦しみに耐えなければならなかったことから、子どもには大人とは違う専門的な医療が必要であると考えた。Cliseのいとこであった医師John Musserや23人の女性の友達に相談し、Children's Hospital



【写真1】創設者Anna Cliseの銅像

& Regional Medical Centerを設立した。以来Children's Hospital & Regional Medical Centerは、地域のニーズと寄付によって成長を遂げ、現在250床となった(写真2)。時代とともに変わりゆく小児専門医療とその需要、さらには次世代を担う子どもたちの発達と成長を促すケアに対応している。ちなみに2006年は、12,325人の入院患児、31,825人の救急外来受診患児と170,000人近くの外来患児を受け入れた。

Children's Hospital & Regional Medical Centerの使命は、“私たちは、すべての子どもたちには独自のニーズがあつて、病気または怪我なくして育たなければならないと考えている。地域の支持・私たちの探究心・予防医学・治療が、子どもの病気を排除する。”であり、その展望は、表1の通りである。これら使命や展望に基づき、保護者の収入や貧富に関わらず子どもを受け入れ、子どもたちや家族、面会者や病院に来るすべての人々にとってより快適な空間となるよう、地域の支援に支えられながら人的・物的環境を整える努力を続けている。質の高い医療を提供し続けるため、研究活動にも力を入れており、Dr. Robert Hickmanの感染に強い中心静脈カテーテルチューブの研究、Dr. Abe Bergmanの乳幼児突然死症候群（SIDS）の研究など、現在もなお、活用され研究され続けるテーマの先駆者が多数輩出されている。

Ⅳ. Children's Hospital & Regional Medical Centerの視察内容

Children's Hospital & Regional Medical Centerでは、病院職員からの説明と質疑応答、施設の見学の機会を得た。病院職員からの説明と質疑応



【写真2】Children's Hospital and Regional Medical Center

表1. Children's Hospital & Regional Medical Centerの展望

1. 私たちは、患者とその家族に対し、優れたケアと思いやり、尊敬を提供する
 2. 私たちは優れた利用しやすい、費用効率の高いサービスを提供する
 3. 私たちは、組織の全ての部署において最高の技術を身につけ、持続する
 4. 私たちは、小児に対する研究機関トップ5のうちの1つ
 5. 私たちは、国の第一の小児医療教育機関
 6. 私たちは、患者ケア、研究、教育と支持を集積することによって、世界的に卓越する
- Children's Hospital & Regional Medical Center配布物より 筆者ら訳

答では、Infection Control Nurseから感染予防対策、病棟看護師から病棟看護師の勤務と他職種との関わりなどについて説明を受けた。学生たちは「小児への病名の告知について」「子どもの家族への配慮(付き添いなど)について」「病床数や対象疾患について」「看護体制について」「看護研修制度について」など様々な質問を行っていた。

感染予防対策では、基礎疾患や化学療法などによって免疫力の低下している子どもに対して、看護師が行っている手洗いや気流を考えたベッドコントロール、感染予防対策としてガウンテクニックなどの処置をどこまで行うかの表示などについて説明が行われた(写真3・4・5)。なかでも「感染予防対策としてトイレ以外の手洗い場に鏡をつけない」という設備の工夫について、学生たちは日本の設備との違いを感じていた。

また、対象が子どもであっても、病気や治療についてきちんと説明を行っていること、バイタルサインの測定や日常生活援助の一部を看護助手が行うことで看護師は情報を統合し計画を立て他職種とのコーディネートをを行うなど看護業務に専念できること、Children's Hospital & Regional Medical Centerに就職する看護師の多くは、学生のうちから



[写真4] 感染予防対策についてカードを用いた説明



[写真5] Infection Control Nurseによる説明



[写真3] 鏡のない手洗い場

Children's Hospital & Regional Medical Centerで事前研修を受けているなど、“アメリカにおける看護”について考える機会となった。

施設見学では、病院に入ったときから子どもが喜びそうなオブジェや壁画などを見学した。また戸外には、医療従事者が決して立ち入ることができない、子どもとその家族のみが利用できる庭が準備されており、子どもやその家族が尊重されている様子がうかがえた。病室も家族と一緒に泊まっても決して狭くない広さとあらかじめ一緒に過ごすことも一緒に過ごせないことも想定された設備を見学できている(写真6・7・8・9)。

V. 学生の反応

(レポート及びアンケート調査から)

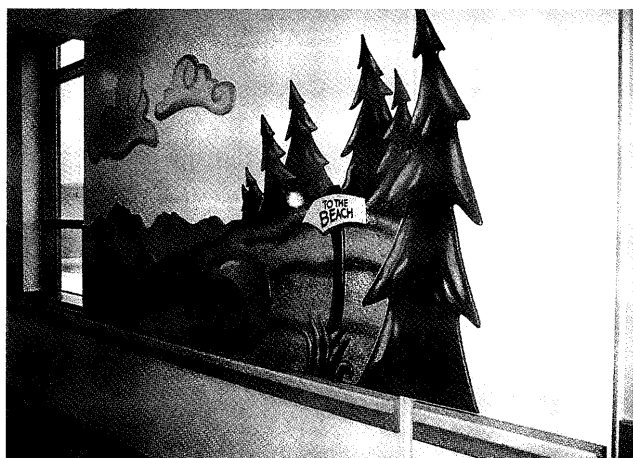
帰国後、研修に参加した学生には、レポートの提出とアンケートを実施した。レポートには、「環境」「看護師の勤務体制」「子どもへの説明や告知」「入院患者の年齢」など、多くの内容について述べられていた(表2)。また、日米の医療制度や看護の違いに

についても考察しており、どちらが良いとは言えないまでも、現在の日本の小児医療や小児看護について考える機会となっていた。

また、帰国後のアンケートでは、18名中14名の学生が「とても興味をもてた」と答えており、残る4名も「興味をもてた」と答えていた。この結果は、研修3日目Yoriko Kozuki先生の講義(とても興味をもてた:16名、興味をもてた:1名、あまり興味をもてなかった:1名)、研修4日目「AEGIS OF REDMOND」の視察(とても興味をもてた:15名、興味をもてた:3名)に次ぐものであった。さらに印象に残ったイベントとして「小児病院が凝っていて印象に残った」という意見もあった。

VI. 考 察

今回、本学部独自の企画である学生の海外研修をアメリカWashington州Seattleにて実施した。アメリカの広大な国土と多民族国家が創りあげた文化は、日本の繊細で伝統を重んじる文化とは異なる点も多い。本研修では6泊8日という限られた日程では



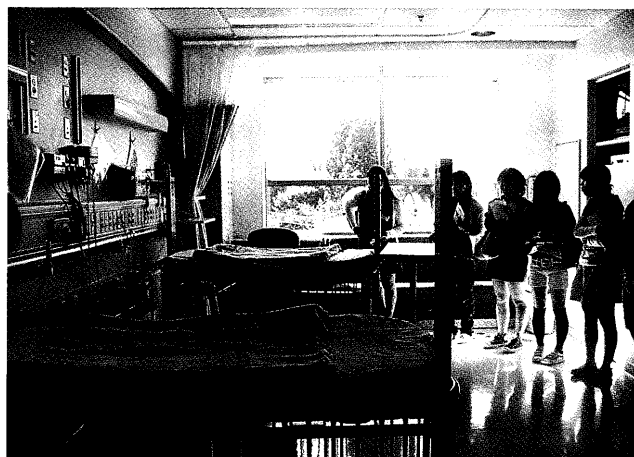
[写真6] 壁に描かれた絵



[写真8] 医療者が立ち入れないプレイガーデン



[写真7] テーマに基づく絵の描かれたエレベーター



[写真9] 2人部屋

表2. 学生の意見

	内 容
環 境	<ul style="list-style-type: none"> ・見学した病院もシアトルの町並みも、アメリカは色覚的に楽しめるように公共のものが、とてもカラフルでお洒落で気持ちがとても楽しくなると感じた。—中略—アメリカの人々は、楽しい雰囲気町の町並みからもわかるように、日常を楽しく生き生きと明るく暮らすことを根底に過ごしているのではないかと感じた。 ・外には公園のようなプレイルームがあって男の子とお母さんが水遊びをしていた。 ・入院してる雰囲気を感じさせない。
看護士の勤務体制	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフは看護師・看護助手で1シフトとなっており、夜勤時でも20人の看護スタッフがいないことになる。 ・看護師は自分で観察したりケアを実施する機会が減り、本当に患者を看護する上で不安が無いのか。
子どもへの説明や告知	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢に合わせた説明法をしなければならない。 ・入院している児はほとんどみんな自分の病気のことを理解しており、きちんと理解していたほうが効果的・効率的に治療に臨め、ケアを提供することができるという。
入院患者の年齢制限	<ul style="list-style-type: none"> ・入院していられる年齢は、児童（18歳）が主で22歳になったら退院しその後の受け入れ先を探すことになる。

*学生の承諾を得て掲載

あったが、研修に参加した学生たちにとって文化の違いを直接肌で感じる機会となったと考える。

Children's Hospital & Regional Medical Centerの視察では、病院の敷地に到着したそのときから、広大な敷地やエントランスの動物のオブジェ、施設内のほぼ全面にわたって描かれている、建物のテーマに基づくカラフルな壁画を、学生たちは目にすることができた。これは、Children's Hospital & Regional Medical Centerの子どもや家族など病院に訪ねてくる全ての人々にとって快適な環境を提供するという信念と、信念を実現するために繰り返された100年にわたる歴史、Children's Hospital & Regional Medical Centerを支えている地域の人々や病院関係者の努力に触れる機会となったと考える。そしてほぼ全員の学生が、子どもにとっての最善を考えられた施設・設備に感銘を受けていた。

日本では、限られた施設・設備を元に可能な限り努力をして、目指したい医療の形を実現しようとする傾向があると思われる。しかし、今回視察したChildren's Hospital & Regional Medical Centerでは、限界を設けず常に目指す方向を実現する努力をしていた。また、学生たちは日本の文化を否定するのではなく、自分たちとは違ったアメリカの文化に触れ、異文化に触れることで現在の日本を知り、

未来を考える機会としていた。このことは、これからの看護を担う人材が、海外の文化に触れる意義となる。

また、今回の研修3日目(8月22日)にはWashington大学Associate Professor Yoriko Kozuki先生の“アメリカの医療制度と看護、精神医療”に関する講義を聴講した。学生たちはこの講義で、日米の医療事情の違いを学び、医療保険制度の違いとそのため生じる医療問題について考える機会が得られた。その講義の後にChildren's Hospital & Regional Medical Centerを視察したことは、学生たちにとって講義で得られた知識が実感できる体験となったであろう。Children's Hospital & Regional Medical Centerの徹底した子どもと家族、そして、病院を訪れる全ての人々にとって快適で最善な環境を提供するという信念は、アメリカの医療が先進的であることを肌で感じたことであろう。また一方、このような充実した小児病院で医療を受けられる子どもは、ほんの一握りに過ぎないという事実も直接病院スタッフから聞き、日本の皆保険制度との違いやアメリカの直面している医療問題を実感する機会となった。

今回の研修では、4年生2名、3年生12名、2年生4名が参加している。就職に向けて活動をはじめた4

年生、4年生の動向を来年のわが身に置き換えて考え始めている3年生にとっては、アメリカの看護師制度を講義で学び、Children's Hospital & Regional Medical Centerで実際に働く看護師から話を聞くことができ有意義であったと思われる。アメリカの看護学生は学生のうちから目指す方向を考え、働きたいと考える病院で自ら研修を受け、そして研修を受けた病院に就職するという。大学で学びながら日常的に病院の雰囲気を感じることでできない本学部の学生たちにとっては、インターシップへの参加など病院環境に積極的に触れ、自らの進路を考える機会にもなったと考える。

さらに、今回の研修では3年生が12名と2/3を占めていた。授業進行上、これまでは病院に入院している小児や小児を取り巻く医療環境に触れる機会が少なく、今回の研修前に十分な準備ができなかったかもしれない。そのため感染予防対策や子どもへの病気や治療の説明方法などはあまり深い学びとならなかった可能性がある。しかし、今後の授業や実習経験を積み重ねる中で貴重なリソースとなりえる体験ができたと思われる。学生自身が授業や実習を通して、自らの経験に対し意味づけできればより深い学びへとつながると考えた。

Ⅶ. まとめ

Children's Hospital & Regional Medical Centerは、今回の視察先の中では唯一の病院であった。学生は、Children's Hospital & Regional Medical Centerの研修を通して、アメリカの医療事情や施設設備の工夫や看護師の役割について、日米の考え方の違いなどについて学ぶことができたと考える。

来年度も本学部ではWashington州Seattleでの研修を検討している。Children's Hospital & Regional Medical Centerのような強い信念に基づき努力を続けている病院施設の視察を計画し、学生たちが貴重な経験ができる研修を企画したい。

引用・参考文献

- 1) 外務省ホームページ 在外公館医務官情報
アメリカ合衆国 (ワシントン)
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/name/usa.html> (検索日2007年10月25日)
- 2) Children's Hospital & Regional Medical Center ホームページ
<http://www.seattlechildrens.org>
- 3) Children's Hospital & Regional Medical Center 配布資料



〔写真10〕 施設を案内してくれたJulie Povick氏

Oversea-Training Report in 2007 partⅢ
— Children's Hospital & Regional Medical Center Program Contents —

International Exchange Committee, Faculty of Nursing

Yayoi AKAMATSU¹⁾

Takemi WATANABE¹⁾

Takeshi KATSUKI¹⁾

Takeshi KOIKE¹⁾

Abstract

The First Overseas Training for Faculty of Nursing Students was held in Seattle, Washington, in the United States, over the eight-day period from August 20 (Monday) to August 27(Monday), 2007. The agenda included six nights spent at dormitories at the University of Washington, visits to observe elderly care facilities, and a tour of Seattle. On the fifth day (August 24), a study visit was made to Children's Hospital & Regional Medical Center.

This was the only hospital visited during this program. The training at the Children's Hospital & Regional Medical Center allowed the students to observe the circumstances of American medical care and study the differences in Japanese and American conceptual approaches to facilities and equipment as well as to the role of nurses.

1) Faculty of Nursing